



感染症発生動向調査 Infectious Diseases Weekly Report

週報

今週の発生動向総覧	1	今週の全データ	10
今週の注目疾患(手足口病)	2	感染症の話(麻疹)	18
今週の時系列グラフ総覧	3		

今週の発生動向総覧

第18週は、ゴールデンウィーク中で、祝祭休日と土曜、日曜を除いたいわゆる平日が2日のみであったため、コレラを除く全ての疾患で報告数が前週を下回った。とくに定点把握の対象となる4類感染症に関しては報告数が顕著に減少しているため、時系列での流行曲線の評価はむずかしい。詳細は次週にまとめてコメントする。

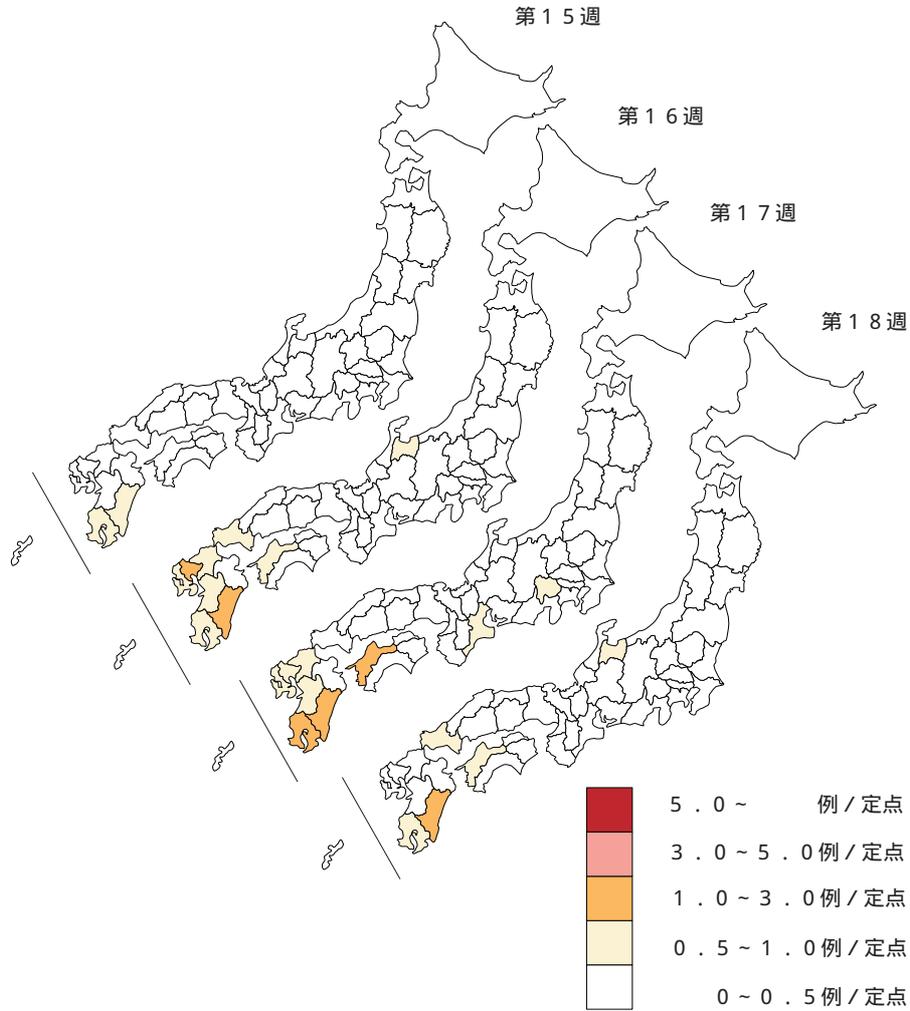
全数報告の感染症のうち、1類感染症の報告はない。2類感染症はそれぞれコレラ2例(先週の報告数0)、細菌性赤痢7例(8)、パラチフス1例(3)の報告がある。3類感染症の腸管出血性大腸菌感染症は6例(14)が報告されている。4類感染症では、それぞれウイルス肝炎6例(29)、ツツガムシ病2例(2)、梅毒2例(6)、破傷風1例(1)の報告がある。

定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)については前述の理由でコメントできる疾患が限られている。咽頭結膜熱、急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎は、ゴールデンウィーク中であるにも関わらず例年に比し定点あたりの報告数が有意に多くなっている。沖縄県では他の都道府県に比べ麻疹の定点あたり報告数が多く、引き続き流行していると考えられる。

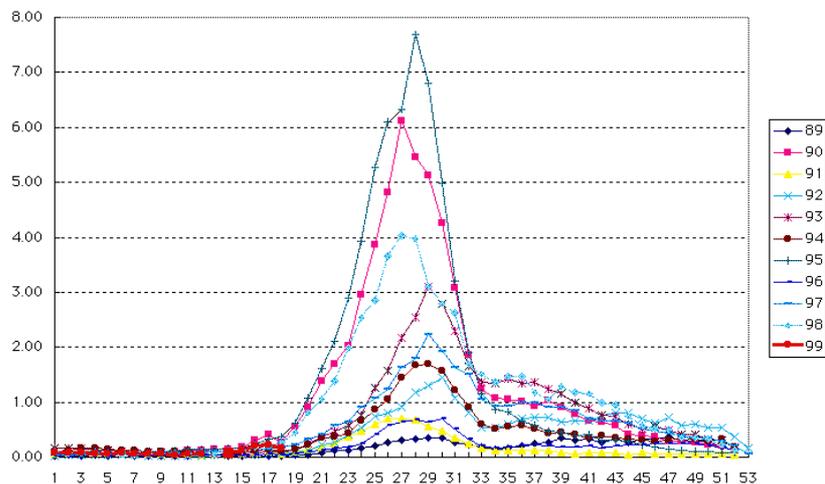
(注)現在の時点で定点把握の疾患について全県分未報告の県は千葉県(千葉市含む)一部の保健所で未報告の県は神奈川県である。

今週の注目疾患(手足口病)

例年このころから報告数が増加してくるところであるが、第18週はゴールデンウィークを含むため報告数は先週より減少している。地域的に見ると九州地区から報告数が増加傾向にある。今後の動向に注目される。

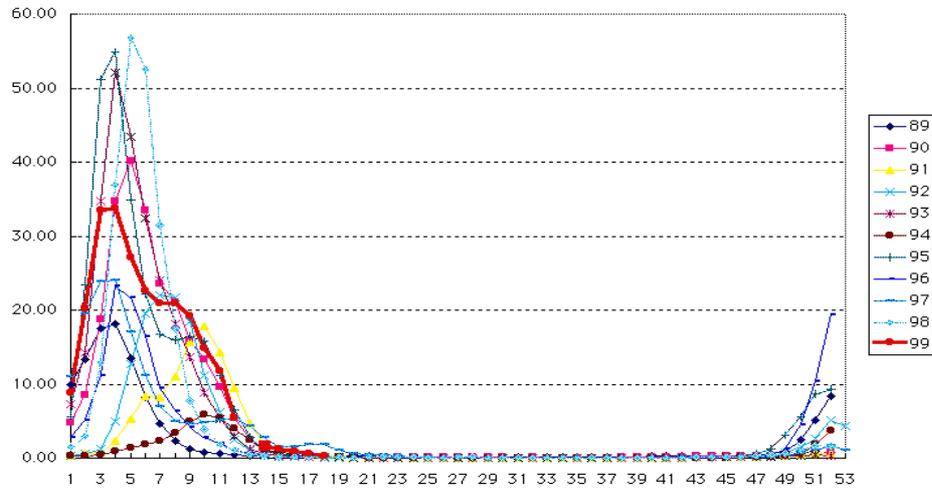


手足口病の10年間の週別定点当たり発生報告数グラフ

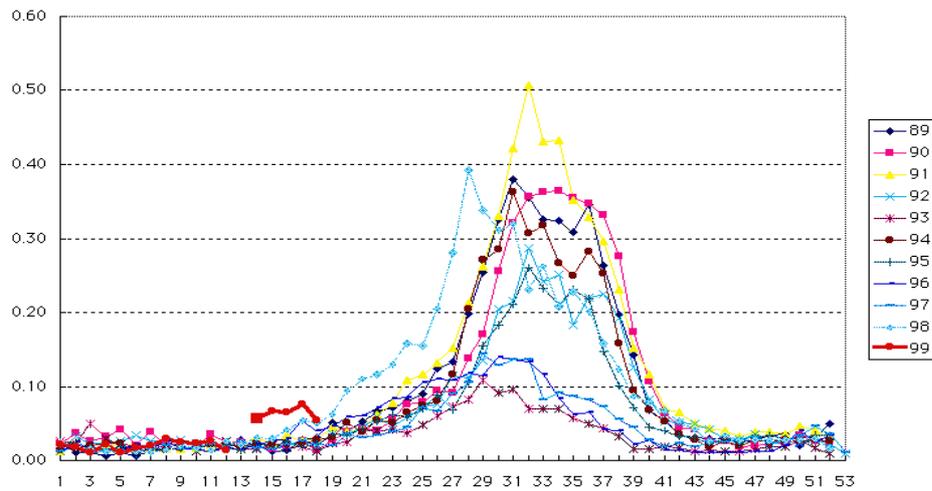


今週の時系列グラフ総覧

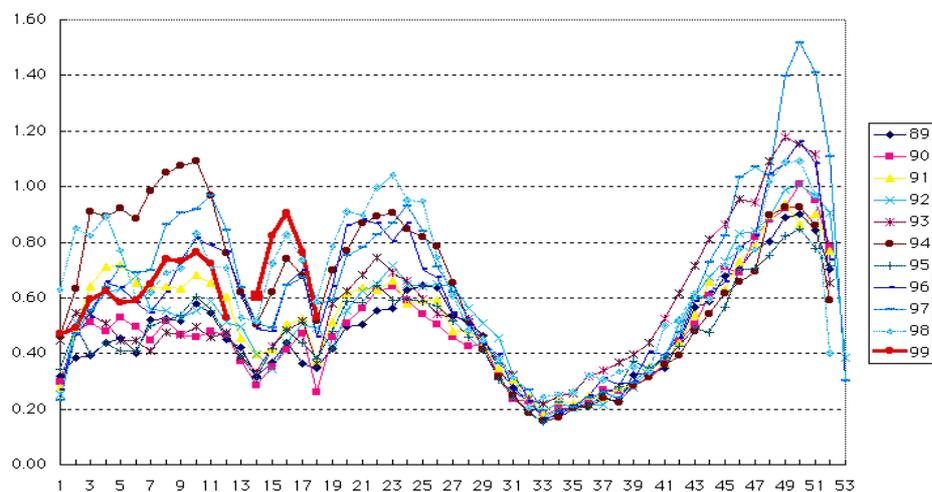
インフルエンザ



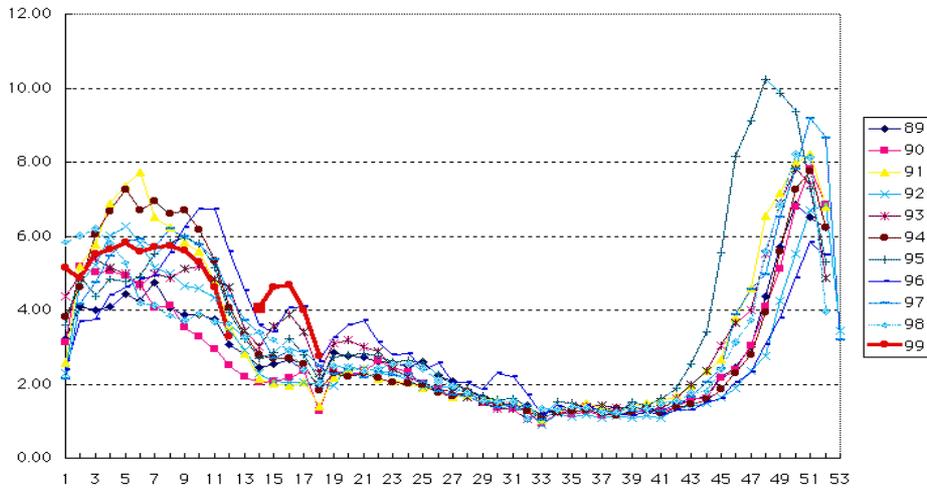
咽頭結膜熱



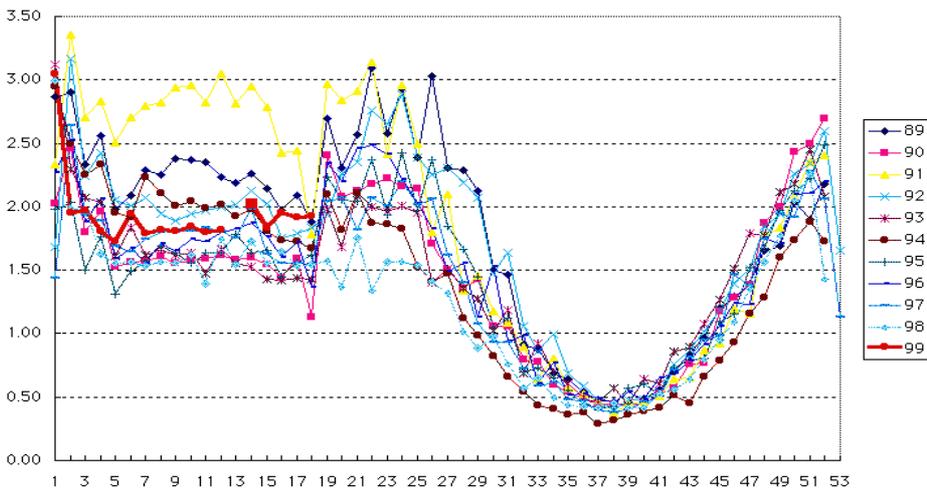
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



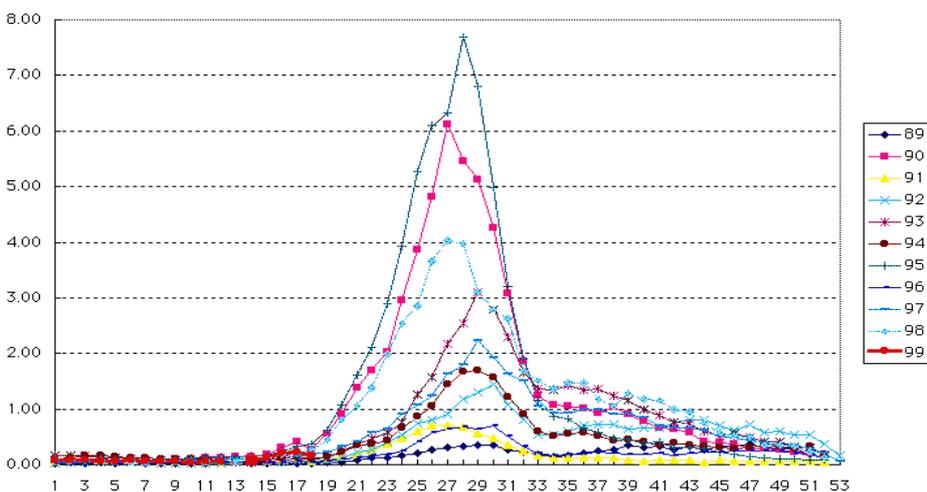
感染性胃腸炎



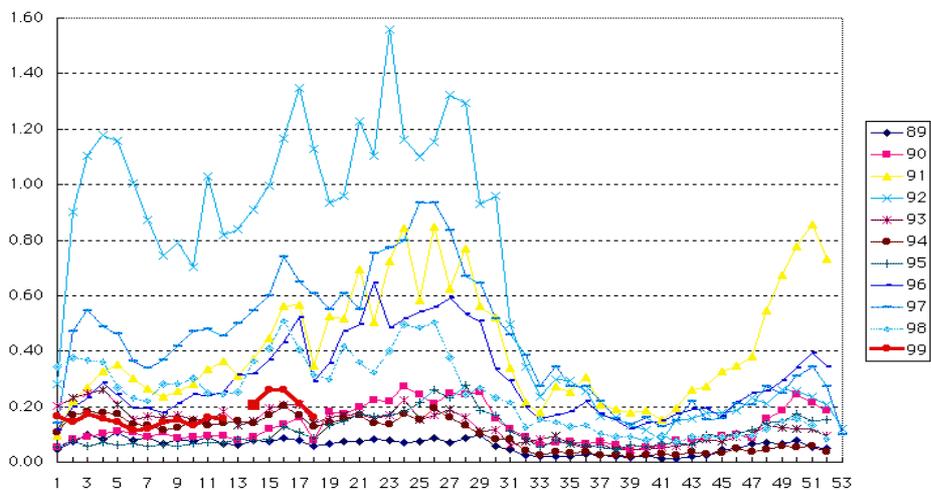
水痘



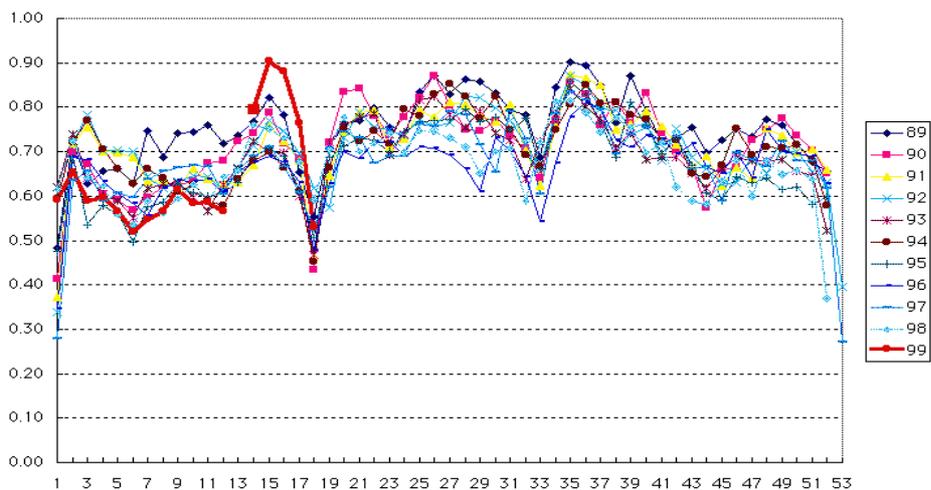
手足口病



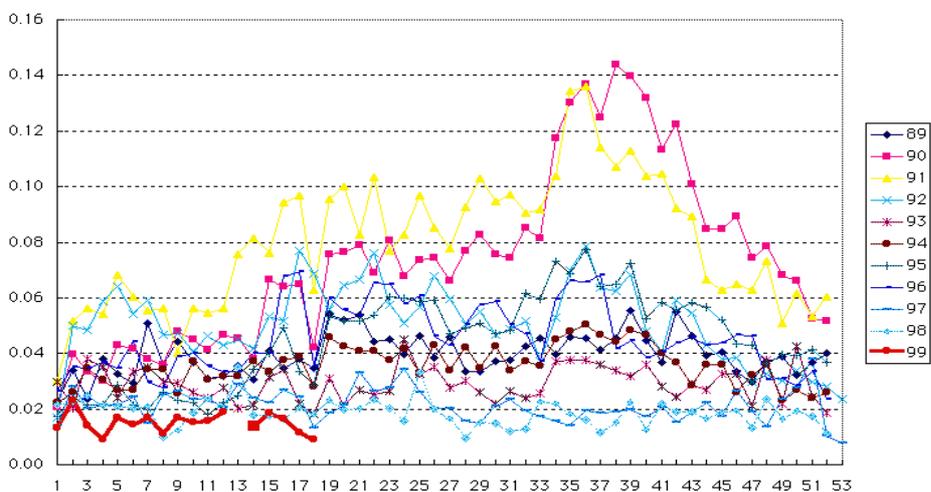
伝染性紅斑



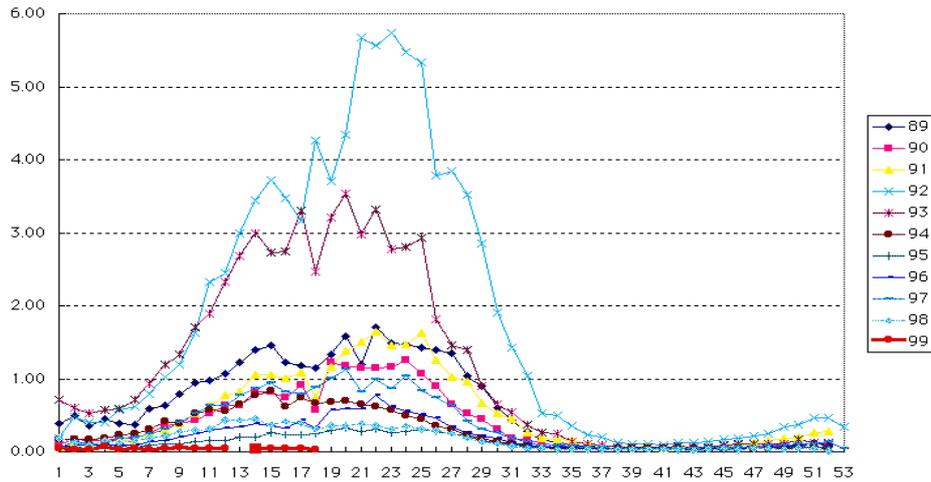
突発性発疹



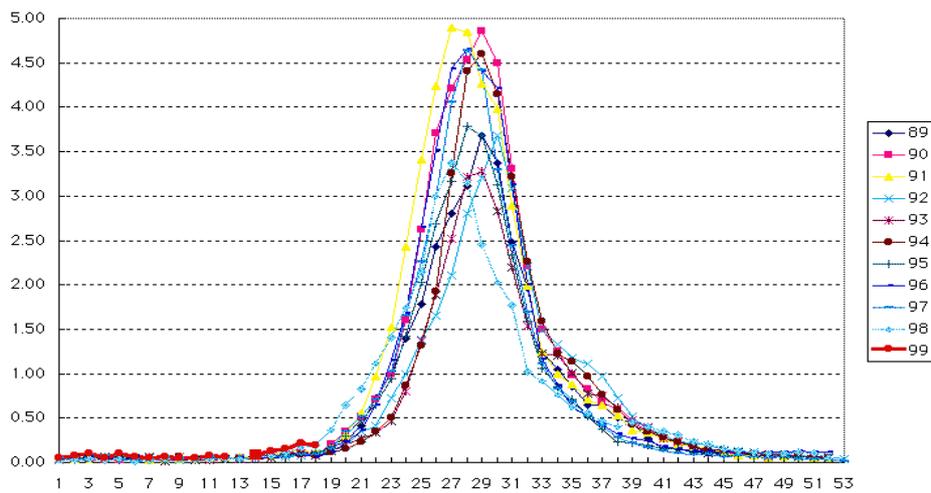
百日咳



風 疹

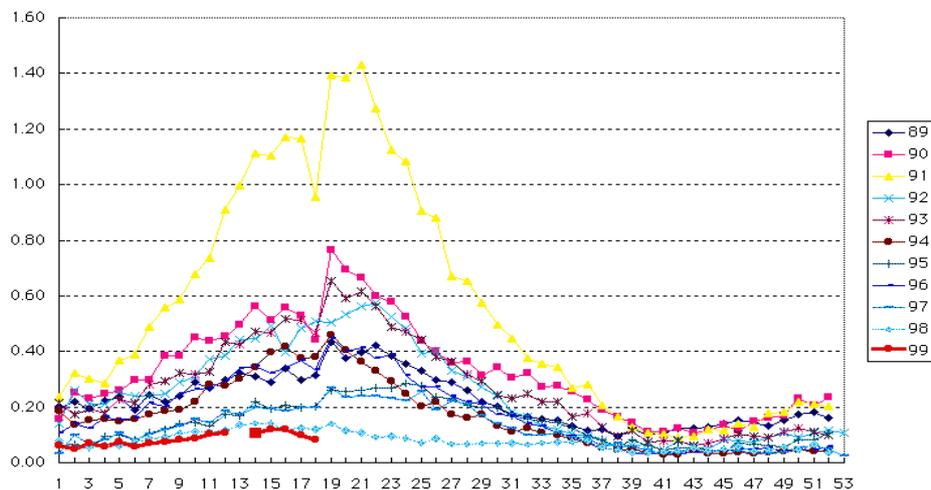


ヘルパンギーナ

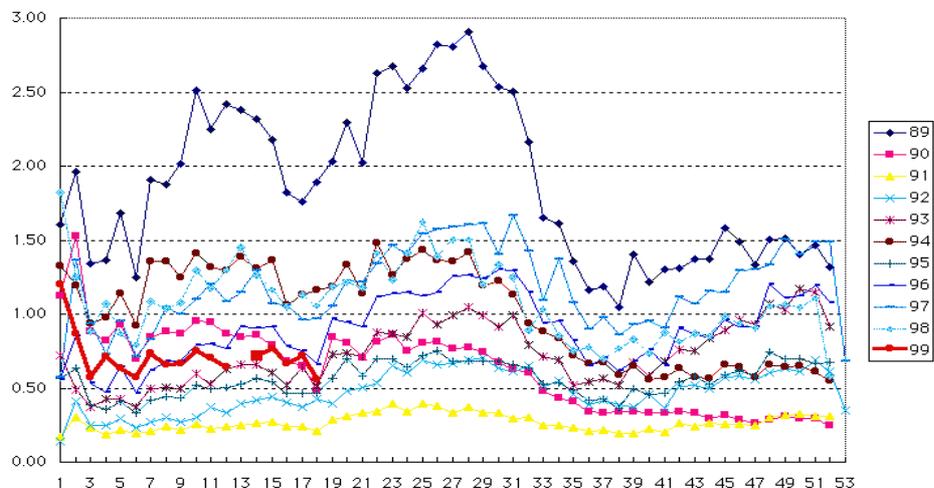


麻 疹 (成人麻疹を除く)

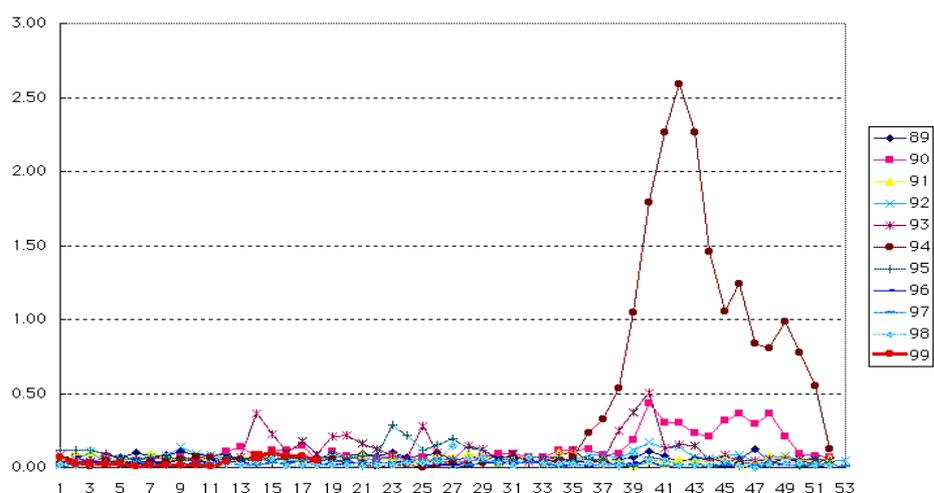
1999年の12週以前は成人麻疹を含む



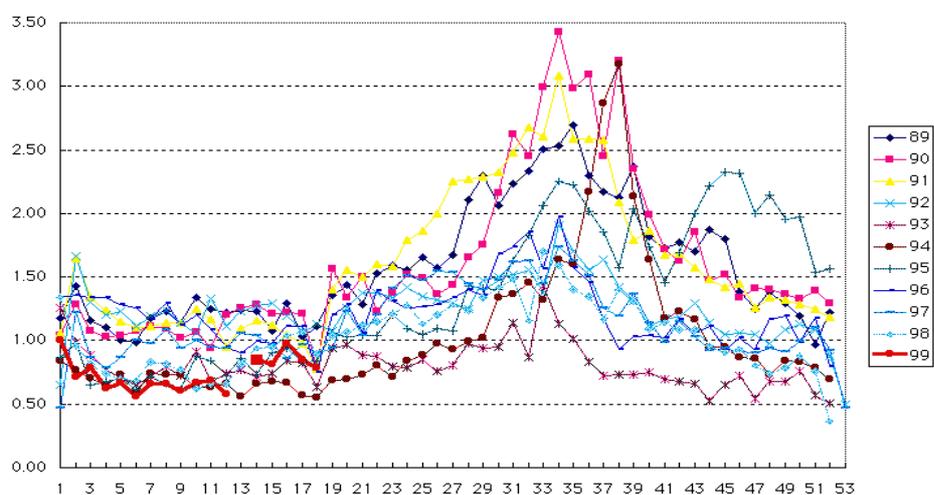
流行性耳下腺炎



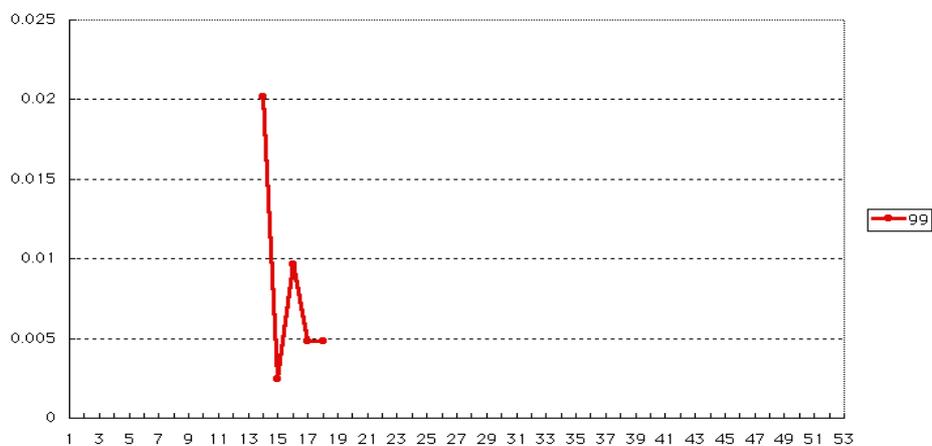
急性出血性結膜炎



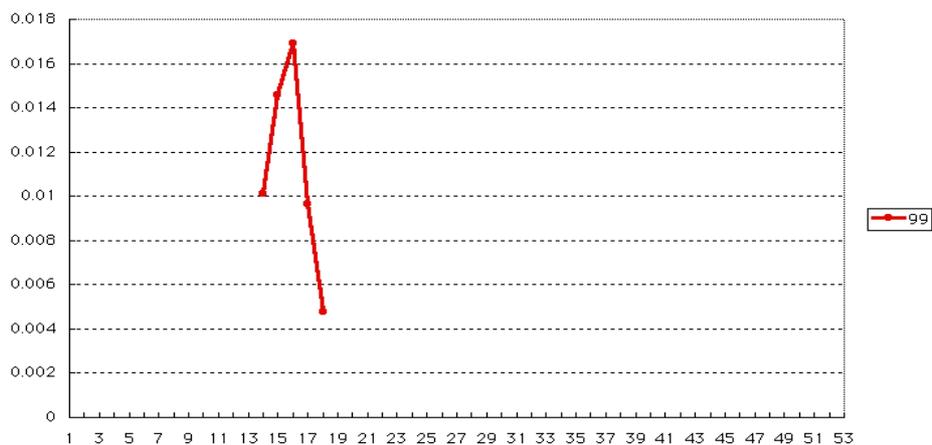
流行性角結膜炎



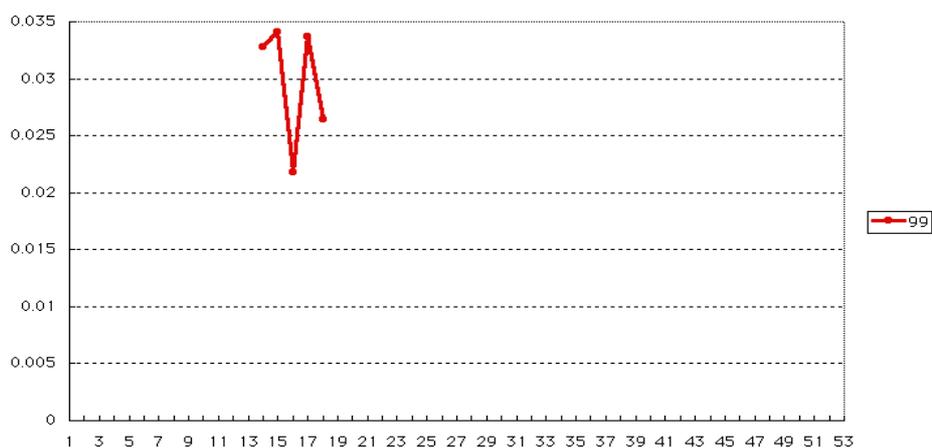
急性脳炎(日本脳炎を除く)



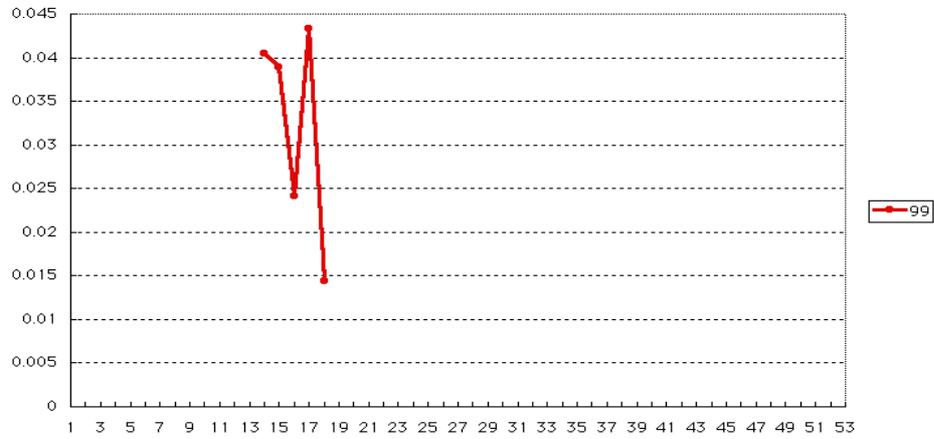
細菌性髄膜炎



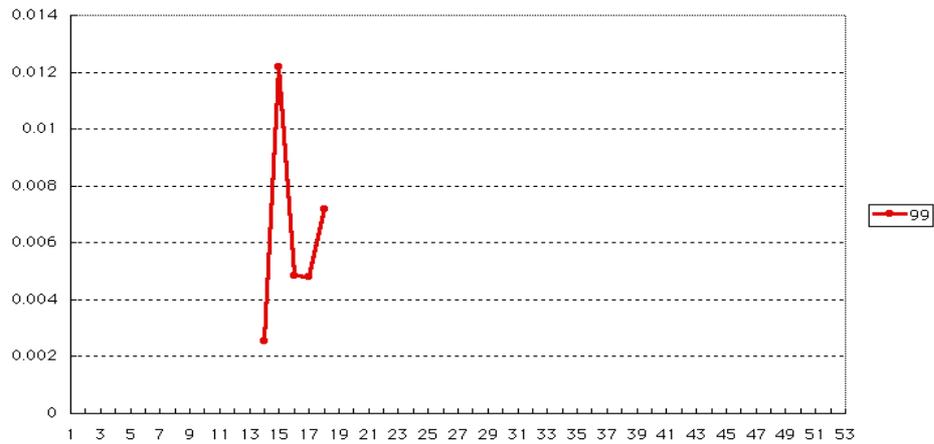
無菌性髄膜炎



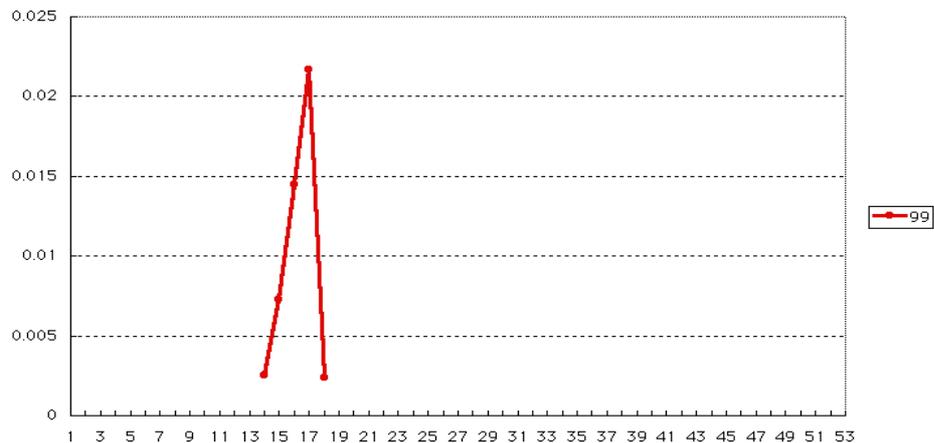
マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎 (オウム病を除く)



成人麻疹



第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成11年18週

		急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回帰熱		ウイルス性肝炎	
		報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
01	総数	-	-	-	9	-	70	-	18	-	-	-	-	-	3	-	-	6	171
	北海道	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
	青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	岩手県	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
	宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
	秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	3
	茨城県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
	栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	群馬県	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
	埼玉県	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	4
	千葉県	...	-	...	-	...	1	...	-	...	-	...	-	...	-	...	-	...	1
	東京都	-	-	-	2	6	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	31
	神奈川県	-	-	-	-	3	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
	新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	富山県	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
	石川県	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
	福井県	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
	山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7
	長野県	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
	岐阜県	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
	静岡県	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
	愛知県	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
	三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
	京都府	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	大阪府	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	兵庫県	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	13
	奈良県	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
	鳥取県	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	岡山県	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	広島県	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3
	山口県	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	徳島県	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	香川県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	愛媛県	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	高知県	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	福岡県	-	-	-	-	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
	佐賀県	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	熊本県	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	大分県	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	宮崎県	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成11年18週

01	平成11年18週															
	Q熱	狂犬病	クリプト	クロイツフェルト	劇症型溶血性	後天性	コクシジ	ジアルジア症	腎症候性出血熱	スポリジウム症	ヤコブ病	レンサ球菌感染症	免疫不全症候群	オイデス症	報告数	累積
01	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-
01	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
01	5	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
01	総数	-	-	-	-	-	-	8	-	1	-	60	-	-	4	-
	北海道	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	山形県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	茨城県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-
	栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
	群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-
	千葉県	...	-	...	-	...	-	...	-	...	-	8	...	-	...	1
	東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21	-	-	-	-
	神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	2	-
	新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	石川県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
	静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
	愛知県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
	滋賀県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	和歌山県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	愛媛県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
01	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成11年18週

01	8		8		8	
	マイコプラズマ クラミジア肺炎 成人麻疹		肺炎 (オウム病を除く)			
01	4	8	5	8	5	8
01	報告数 定点当り		報告数 定点当り		報告数 定点当り	
01	5		2		2	
	総 数					
	6	0.01	3	0.01	1	0.00
北海道	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	1	0.08	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-
山形県	1	0.11	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	1	0.10
栃木県	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-
千葉県
東京都	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-
長野県	2	0.20	1	0.10	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	1	0.20	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-
徳島県	1	0.17	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	1	0.08	-	-	-	-
沖縄県	-	-	1	0.17	-	-
01	2		2		2	

感染症の話

< 麻疹のお話 >

1. 疫学

麻疹は、過去1984年に大きな全国流行を経験しているが、1991年の流行はやや小さく、ここ5年間は大きな全国流行はない(図1、全国麻疹患者定点当たり報告数年次推移)。とはいえ、未だに毎年地域的な流行は見られている(図2、1998年週別都道府県別麻疹患者定点当たり報告数)。感染症発生動向調査では約2500の定点から年間約2万例の報告があり、実際にはこの10倍以上の患者が発生していると考えられる。自然宿主は人間のみで、その他の動物が宿主となることは現在までに知られていない。基本的に大きな飛沫を介するヒトからヒトへの感染で、本邦では通常春から夏にかけて流行する。感染性は非常に高く、感受性のある人が暴露を受けると90%以上が感染する。発疹出現の4日前から出現後4日目までは感染性がある。

図1. 全国麻疹患者定点当たり報告数年次推移

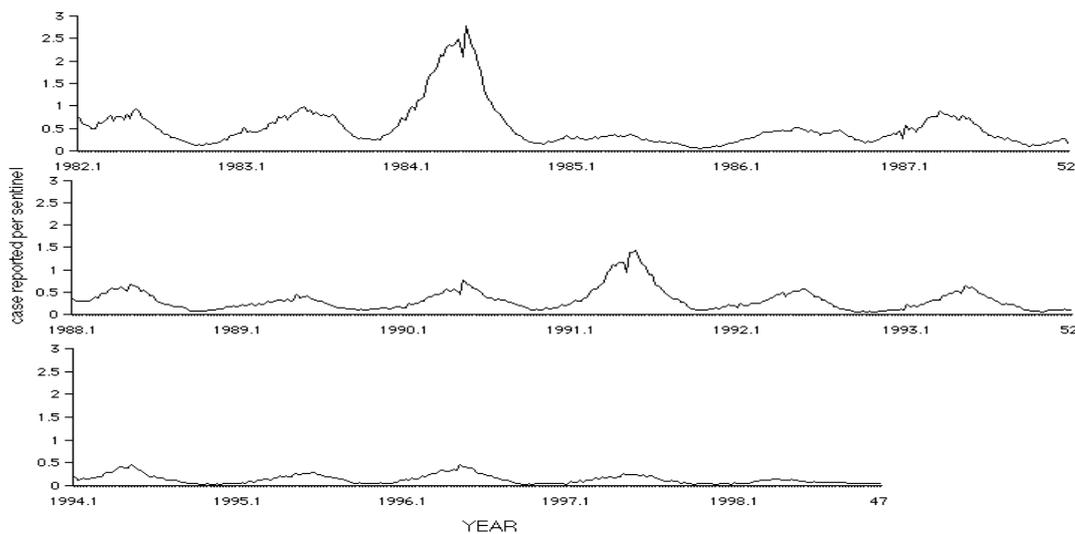
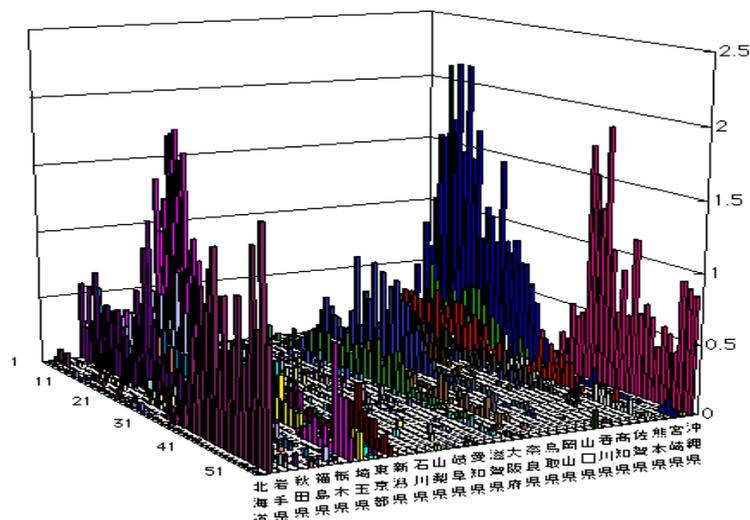


図2. 1998年週別都道府県別麻疹患者定点当たり報告数



2. 病 因

RNA ウイルスである paramyxovirus 群 morbillivirus 科に属する麻疹ウイルスによっておこる。ウイルスの大きさは100~200nmでエンベロープをもつ。エンベロープの蛋白のうちのF蛋白とH蛋白がその病原性に大きくかかわっているが、近年H蛋白の抗原性の変異が報告されている。ウイルスは熱、光、酸性、エーテルによって速やかに不活化される。空气中や物体表面では生存時間は短い(2時間以下)。

3. 臨床症状

10~12日の潜伏期を経て、発熱、咳、鼻汁、あるいは結膜炎にて発症する。発疹出現の1~2日前頃にコプリック斑を頬粘膜にみる。その後通常発熱は若干低下するかのように見えるが、再び高くなるとともに発疹が出現する。発疹は斑丘疹で、毛髪線から始まり、顔面、頸部に出現し、その後遠心性に手足に向かって広がる。5~6日持続した後、出現したのと同じ順序で消退し、あとに色素沈着を残す。約30%の患者が一つ以上の合併症をおこすと言われている。合併症は5歳以下あるいは20歳以上で多い。下痢が患者の8%、中耳炎が7%、肺炎が6%におこると報告されており、肺炎はウイルス性のことも重複感染による細菌性のこともある。脳炎が1000例に1例程度報告されており、死亡率は約15%で、後遺症が25%に残るとされている。肺炎・脳炎の合併は年少であるほど死に至る危険性が高いので注意が必要であり、感染を予防することがもっとも重要である。

また、麻疹ウイルスの持続感染によると考えられている亜急性硬化性全脳炎(SSPE)が麻疹患者の100万例に5~10例おこると言われている。進行性の神経症状、痴呆症状を示し、最終的には死に至る予後不良の疾患であるが、米国では麻疹ワクチンの普及により激減した。

4. 検査室診断

ウイルスを分離することは本疾患の確定診断につながるが、通常は臨床診断が容易なためあまり行われなない。しかしながら、近年の流行ウイルス株を調べたり、ウイルスのH抗原の変異などを検索する分子疫学的発生動向調査には非常に重要である。通常、尿、咽頭拭い液、ヘパリン化全血から分離されるが、発疹出現後3日以内が分離率が高い。

血清診断として、赤血球凝集阻止反応(HI)、ゼラチン粒子凝集法(PA)、中和法(NT)、ELISA法があるが、急性期と回復期の抗体価の上昇を持って診断する。また捕捉IgM-ELISAにてIgMを証明すれば、単血清で診断が可能である。

5. 治療と予防

特異的治療法はなく、対症療法が中心となるが、中耳炎、肺炎など細菌性の合併症をおこした場合には抗生剤の投与が必要となる。それ故に、予防が最も重要である。予防のための高度弱毒化生ワクチンが、現在本邦では4社から市販されている。予防接種法では生後12ヶ月から90ヶ月までの間を接種年齢としているが、1歳代に罹患すると重症になることから、1歳を過ぎたらできるだけ早期に接種することが望ましい。接種により95%以上の児で抗体を獲得する。臨床的な有効性についても93~97%と報告されており、ワクチンの有効性は明らかである。

副反応として、接種後10日前後に発熱が約30%に、同時期に発疹が約10%にみとめられる。いずれも軽症でありほとんどは自然に消失する。ごく稀に(100~150万接種に1例程度)脳炎を伴うことが報告されているが、麻疹に罹患したときの脳炎の発症率に比べると遙かに低い。

感染症週報 第1巻、第5号 平成11年5月21日発行

発行：国立感染症研究所 感染症情報センター

厚生省保健医療局結核感染症課

厚生省大臣官房統計情報部

連絡先：〒162-8640 東京都新宿区戸山1-23-1(感染症情報センター)

T E L : 03-5285-1111

F A X : 03-5285-1129

U R L : <http://www.mhw.go.jp> <厚生省>

<http://idsc.nih.go.jp> <感染症情報センター>

本週報に記載のデータは、感染症新法に基づく発生動向調査によるものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所等の皆様のご協力により収集されたデータです。本週報記載の内容について、速報性を重視してありますので、今後、調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には、週報上にて訂正させていただきます。また本週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。